

2018年度 分野別計画進捗等報告書

体系番号
05010103

1. 計画名称

茅野市道路河川等整備計画

2. 計画全体の進捗状況及び総合評価

進捗評価	順調	説明	橋梁点検は5年間で504橋完了。舗装集中修繕は第1期工事(5年計画L=26,493m)に対し20,041.1mの完了。計画的に進めることができている。
今後の重点化施策番号	3	説明	橋梁の5年に1回の点検が義務化されてから、一巡したが、1割程度補修の必要な橋梁が浮き出された。今後舗装の改修も含め喫緊の課題である。関係する市民団体はない。

3. 各施策等における評価内容と改革改善

区分	施策名称	進捗評価	総合評価		改革改善の具体的内容
			主な取組内容や成果	課題	
1	道路・河川管理対策	おおむね順調	1 道路管理による事故を抑制する必要があることから、道路横断側溝(グレーチング)の破損度調査を行った。定期的な道路パトロールを行っていることで一定の成果はある。 2 道・水路の境界による問題の発生を抑制するために、未登記道路の解消を継続的に行っている。	1 道路横断側溝等の調査や道路パトロールを行っていることで一定の成果はあるが、H30年度に発生した同箇所での連続事故のような場合は休日の事故であり、発見者から情報提供をいただかなければ迅速な対応は困難である。なお、アンダーパスには監視カメラを設置した。	1 精度の高い情報提供を得るために研究・調査する。 2 日々の境界立会いにおいて解消可能な場合は、後回しせず関係者と協議する。
2	道路・河川維持対策	おおむね順調	地区要望箇所は概ね対応した。(90.7%)	地区要望のほか、市内の施設は老朽化し、修理は追いつかないのが現状である。	最少予算で最大効果が出るような工夫。 新工法の導入など
3	道路・河川建設対策	順調	今年度に5ヶ年かけて行ってきた504橋の橋梁点検が終了した。舗装集中修繕事業は、第1期工事(5ヶ年計画L=26,493m)4年目を迎え計画的に進めることができている。 交付金事業は中大塩幹線が終了し、神之原2級8号線を中心に進めることができている。	橋梁点検が終了し、修繕工事について計画を見直す必要がある。 レベル3以上(修繕が必要)の橋梁が47橋ある中、橋梁修繕費の確保と、地元区からの要望に対する工事費の確保が課題である。	交付金を利用した事業を進めることと、修繕費を意識した修繕方法を検討する必要がある。 今後、レベル3からレベル2(経過観察)まで修繕し、長寿命化を図っていきたい。 また、地元区からの要望事項を優先し、早急な対応をすることで市民の満足度を上げることが必要である。
4	交通安全対策	順調	ハード面では、老朽化ミラーの更新を順調に実施している。また、区・自治会等からの要望に対する整備も優先度により実施している。 ソフト面についても、関係機関と連携して教室を実施しており、子どもの事故防止に努めている。	施設整備に多くの費用が発生する。特に除雪で削れる道路区画線の更新は後回しになりやすい。また、歩行者を守るポールの設置について要望が多いが、予算上、設置が限定してしまう。	各交通安全施設の設置に係る優先順位付けをしながら、更新が停滞している主要路線の路面標示を実施する。
5	地籍調査対策	おおむね順調	・玉川7区(G,E,F I ,F II ①工程) 0.13km ² ・玉川6区(F II ②,G,H工程)0.18km ² の実施	補助金交付決定額に応じて事業量を定めているため、実施する面積は国の採択する事業量に左右されている。年度当初の事業計画では0.21km ² の要望を行っていたが、要望額に対し約38%減の交付額の決定を受けたため補助額に応じた実施面積は0.13km ² となった。	現状では、国が推奨する施策を含んだものに事業費を傾倒させる方針を示しているため、茅野市では「国土強靱化、防災減災対策」のエリアに実施区域をシフトせざるを得ない。このため、玉川はグリーンラインまで実施したのち、宮川高部か金沢に計画変更を検討する。

※5つ以上の場合は裏面へ

4. 関連市民団体等の主な意見及び対応のポイント

	主な意見	市の考えや対応など
関連市民団体等名称	関連市民団体はありません。	
開催回数		
参加延べ人数		

5. 添付資料

別紙「施策評価シート」